

# 變つた性質の幼児について

及川ふみ

一六

新入園児が家庭から一躍幼稚園に集つて、團體生活をする事になるに、この團體生活に何等の苦痛を感じることもなく入園の當初より幼稚園の生活が楽しく出来るものに、これに反對に團體生活が圓滑にゆかないものがある。

もつとも幼児本體の幼稚園であるから新入の幼児たちも容易にこの集團生活に入るのが大多数であつて、そうでないものはごく少人数である。この一組三十人位の幼児の中に、數人の特別の幼児、即ち他の幼児たちとよく遊べない幼児は、その人自身も誠に氣の毒な幼児であると共に我々保姆にまつても亦誠に骨の折れる幼児である。

かつて自分の學生生活のおはりの頃に生徒監室の見習勤務の様な事をした事がある。その時に寄宿舎生の世話を手傳つて、はじめで先生として生徒を観る事を味つた事であるが目立たない生徒が結局一番よい生徒であるといふ事を先生からきかせられたがこの目立たない生徒は即ち皆よく調和のされた生活が出来てゐる人の事であるやうである。この點今も昔も少しもかはりが無い。集團生活が圓滑に出来るものは自分自身は勿論、まわりの人も誠に幸福なこゝである。受持つた幼児たちの性質なごもだん／＼時日が重なるほど最初の印象ほご強くひゞかないものであるから新入の當時に、目立つたその幼児の特異點を矯正する事につゞめたいものである。

ごく平凡な事であるが變つた幼児を數へ上げて見るに

一、お友達と一緒に遊べないもの

一、一人遊びして友達と遊ばないもの

一、附添をはなさない幼児

一、お友達のおせつかいばかりするもの

一、おこりぼくて亂暴するもの

一、のろく／＼してゐて人のする二倍三倍の時間のかゝるもの

一、おちつきがなくて、次から次へ／＼うつり氣するもの

一、自分一人で勝手なこゝばかりしてゐるもの

右のうち一つの點だけのものもあれば、又一人で二つも三つもいやな缺點をもつてゐるものもある。

こんな幼児たちは大抵の場合においてその子が神経質の幼児である事が多い。つまり神経質の子供は大抵の場合に共同生活の上に變つた幼児としてあらはれて來る事が多いのである。

神経質といふ事は大體かるい程度で、調和的の精神能力の障害に基づく異常である。普通幼稚園にこられる様な程度の神経質といふのは、その障害が感情や智能に著しい障害を起して判断や推理を誤らない程度のものである。

神経質の原因について考へて見るに、外的の原因と、内的の原因とがある様である。内的原因の場合はたゞへば、生れる前に原因があつて生れた時から子供が神経質であることである。外的の原因といふのは悪い習慣にもついで子供が神経質になる事である。

この前者の方はその原因が原因であるだけにその道の専門でいろ／＼研究されるところであるが、後者の外的原因については我々は注意して出來るだけその原因をのぞく事につきめなければならぬ事である。

悪い習慣によつて子供が神経質になる場合の事を一寸考へて見るこゝ

一、故意に放任して、子供がしたい放題に委せておく事　つまり我儘がこうじて神経質になる。

二、第一に反對に一々子供のする事に干渉する

三、御機嫌を害じまいに溺愛するもの

四、親の心配がすぎて神経質に世話をしたりいたはつたりするもの

五、親の機嫌で子供を可愛がつたり吐つたりするもの

こんなこゝが原因で神経質な子供に育てる事になる事も多い様である。

そこで受持つた幼児中、他の幼児とこゝこゝなつて、皆よく遊べなかつたり、おこりばかつたり、よく泣いたり、おちつきがなかつたりする様な幼児たちを見出した時にその變つた性質になつた原因をいろいろ考究して見る事である。

先づその幼児の健康状態について、

次にその幼児の家庭の状況について

考へて見るのであるが家庭の状況については

両親が神経質であるか、或は両親のうちいづれか一方が相當の神経質でないかこゝいふ事

家族の誰かゞ神経質でないか

兄弟姉妹の數やその性質

一人子でないか　末つ子か

附添の女中なごに特に神経質のものがるないか

なごゝ考へてその環境より受ける神経質的原因を考慮しなくてはならない。

次に常人の健康について

偏食の悪習があるのではないか

睡眠の様子はどんなものであるか

身體のごこかに病氣をもつてゐないか

なごゝ云ふ事について考へて見るのである。

このうち偏食の悪習をもつてゐるものが比較的が多いやうであるが、偏食即ち食物にすぎらひの甚しい事で、これは性來の神経質にもよるものであるが、大人がきらひである爲に子供にもたべさせないで、これはまづいミ豫感を與へてしまふものも多いのである。つまりたべすぎらひにする事である。これなごは誠に子供に對して申しわけのない事である。

間食を少くしてこの偏食の癖を矯正する事も出来る。間食が多すぎるミ食事の時も空腹にならないで、何をたべても大しておいしいミは思はない。自然すぎなもの、おいしいものもなくなるのである。きらひなものゝかはりに他の食物を與へない事につまめる事が大切であつて、この點大人でも子供でも少しもかはりない事である。軍隊生活や、寄宿舎生活を少しながく續けたものには偏食の悪習が直る事である。

次に睡眠であるが夜は出来るだけ早くねる事。

出来るだけ戸外の運動を多くして身體の疲勞によつて自然の睡眠をさる事。

又安眠の出来る様に幼兒の睡眠する周圍を靜かにする事

この他いろいろ家庭や幼稚園なごにも複雑した理由もある事も、多々ある事であるけれども特別な性質の幼兒である様

に觀察した場合には、そのよつてきたるまじころの原因をよく調べ幼稚園にその原因がないか、或は家庭の方にもないか、健康の點、家族の様子、通園中の出來事、その他のことについても細心の注意をもつて調べて直接注意の出來る事は保母自らその矯正の方法を講じ、家庭へ協力を望む事はその母親たちとよく相談の上で適當の方法をまじりたいものである。

要するに神經質の幼兒はつまり外からの刺戟に對しての、抵抗力が弱いといふ事に歸著するのであるから出來るだけその弱い神經を刺戟する原因をまじりのぞくま同時に、これに抵抗する力を除く様に養つてゆかなくてはならない。

尙その矯正の方法としては環境の變化にしても、或は悪習を矯正するにしても、その方法は徐々にしてゆかなくてはならない。急激な變化はかへつてやり損ふ事が多いものである。

具體的にいろいろ變つた幼兒の實例を舉げて述べてみたいと考へたがそれは又の機會にのこしておく事にする。

たゞ自分たちが日頃一緒に遊んでゐる幼兒たちは多數志願者のうちから選ばれた幼兒で、變つた性質の幼兒といつてもその程度が又自然こまなつてゐる事を考へられる。